

損益状況

●3行単体合算

(単位:億円)

	平成25年度 中間期	平成26年度 中間期	前年比
業 務 粗 利 益	958	870	▲ 89
資 金 利 益	783	748	▲ 35
役 務 取 引 等 利 益	102	105	3
特 定 取 引 利 益	1	1	0
そ の 他 業 務 利 益	73	16	▲ 57
経費(除く臨時処理分)▲	511	512	1
業 務 純 益 ^{※1}	342	357	15
コ ア 業 務 純 益 ^{※2}	398	355	▲ 43
信 用 コ ス ト ^{※3} ▲	53	▲ 47	▲ 100

「コア業務純益」は、前年度計上した投信解約益・ファンド配当の反動減(▲30)等による資金利益の減少を主因に、前中間期比▲43億円減少し、355億円となりました。

「連結経常利益」は、コア業務純益(前中間期比▲43)と国債等債券損益(前年度計上した売却益等の反動減▲47)は減少したものの、信用コストが▲47億円の戻り益(前中間期比+100)となったことから、前中間期比+5億円増加し、337億円となりました。

【3年連続過去最高益】

「連結中間純利益」は、特別損失や法人税等の増加等により、前中間期比▲18億円減少し、220億円となりました。

●FFG連結

経 常 利 益	333	337	5
中 間 純 利 益	237	220	▲ 18

※1 業務純益=業務粗利益 - 経費(除く臨時処理分) - 一般貸倒引当金繰入額

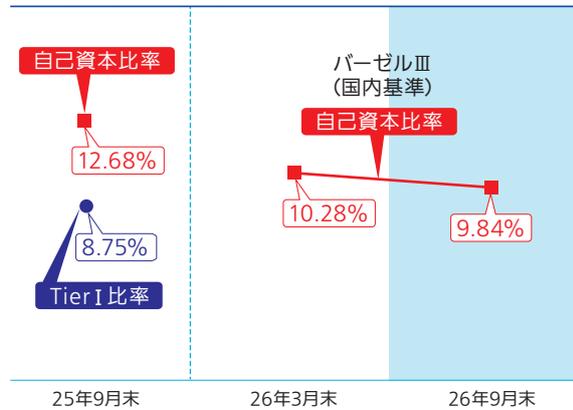
※2 コア業務純益=業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券損益

※3 信用コスト=一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額

自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本比率 [バーゼルⅢ(国内基準)] は、26年3月末比0.44%低下し、9.84%となりました。

自己資本比率・Tier I比率



不良債権の状況(3行単体合算・部分直接償却後)

不良債権残高 は、26年3月末比81億円減少し、2,362億円となりました。不良債権比率は同0.12%低下し、2.37%となりました。

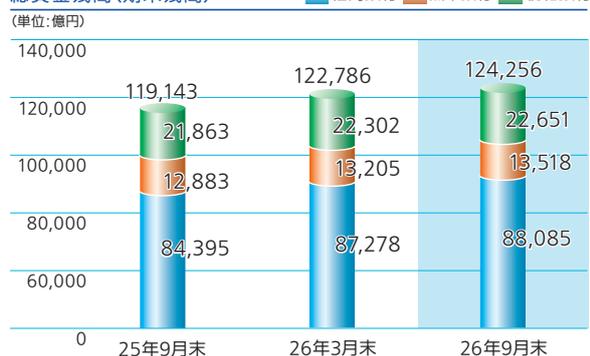
不良債権残高・比率



総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、3行ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比5,112億円増加し、12兆4,256億円となりました。
※NCD…譲渡性預金

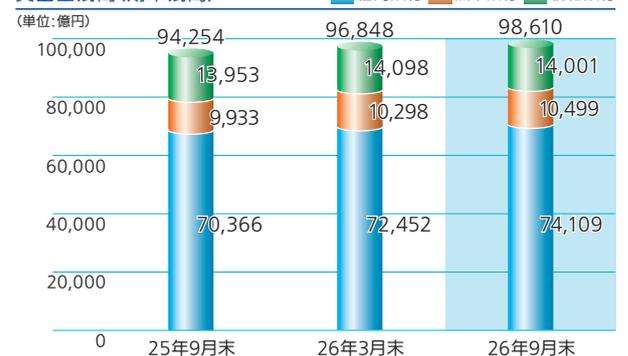
総資金残高(期末残高)



貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、前年同期末比4,356億円増加し、9兆8,610億円となりました。

貸出金残高(期末残高)



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成25年度 中間期	平成26年度 中間期	前年比
業務粗利益	699	621	▲78
資金利益	558	533	▲25
国内部門	530	500	▲30
国際部門	28	33	5
役務取引等利益	75	75	▲0
特定取引利益	1	1	0
その他業務利益	66	12	▲54
経費(除く臨時処理分)▲	330	334	4
業務純益	313	287	▲26
コア業務純益	321	285	▲36
経常利益	370	310	▲60
中間純利益	273	208	▲65
信用コスト▲	▲2	▲31	▲30

「コア業務純益」は、前年度計上した投信解約益・ファンド配当の反動減(▲30)等による資金利益の減少を主因に、前中間期比▲36億円減少し、285億円となりました。

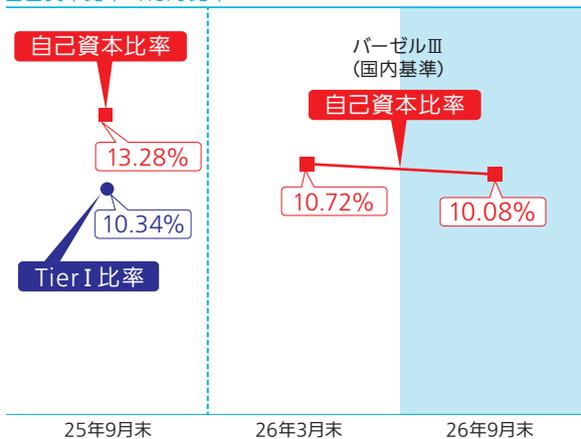
「経常利益」は、信用コストが▲31億円の戻り益(前中間期比+30)となりましたが、コア業務純益(前中間期比▲36)と有価証券関係損益(前中間期比▲65)が減少となったことから、前中間期比▲60億円減少し、310億円となりました。

「中間純利益」は、特別損失の増加等により、前中間期比▲65億円減少し、208億円となりました。

自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本比率 [バーゼルⅢ(国内基準)] は、26年3月末比0.64%低下し、10.08%となりました。

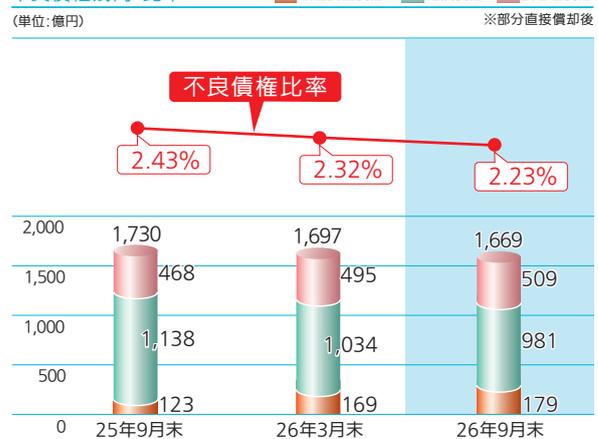
自己資本比率・Tier I比率



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、26年3月末比28億円減少し、1,669億円となりました。不良債権比率は同0.09%低下し、2.23%となりました。

不良債権残高・比率



総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比3,690億円増加し、8兆8,085億円となりました。

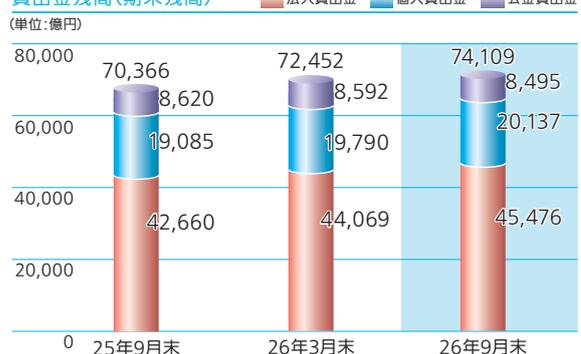
総資金残高(期末残高)



貸出金の状況

公金貸出金は減少しましたが、法人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年同期末比3,742億円増加し、7兆4,109億円となりました。

貸出金残高(期末残高)



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成25年度 中間期	平成26年度 中間期	前年比
業務粗利益	103	102	▲1
資金利益	93	91	▲2
国内部門	94	91	▲3
国際部門	▲0	0	1
役務取引等利益	8	9	2
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	2	2	▲1
経費(除く臨時処理分)▲	74	70	▲5
業務純益	4	33	29
コア業務純益	29	32	3
経常利益	▲6	33	39
中間純利益	18	52	34
信用コスト▲	26	▲5	▲31

「コア業務純益」は、国内資金利益の減少を役務取引等利益の増加や経費削減等によりカバーした結果、前中間期比+3億円増加し、32億円となりました。

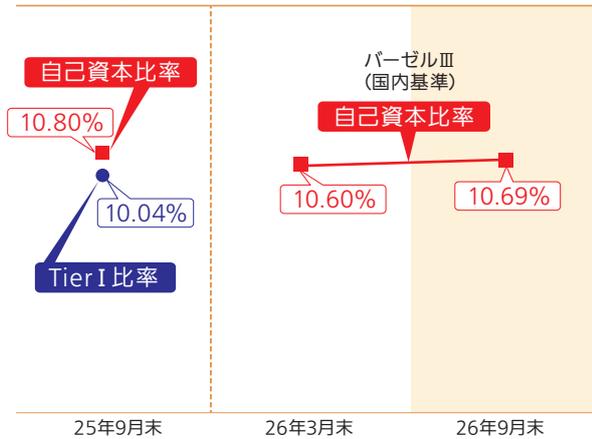
「経常利益」は、コア業務純益の増加(前中間期比+3)に加え、信用コストが▲5億円の戻り益(前中間期比+31)となったことから、前中間期比+39億円増加し、33億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比+34億円増加し、52億円となりました。【過去最高益】

自己資本比率の状況(単体ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、26年3月末比0.09%上昇し、10.69%となりました。

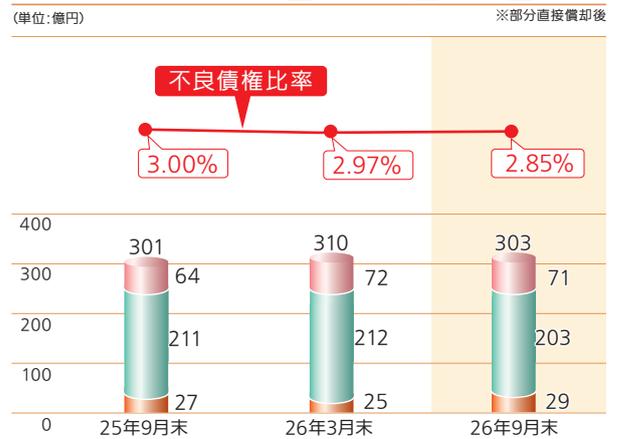
自己資本比率・Tier I比率



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、26年3月末比6億円減少し、303億円となりました。不良債権比率は同0.12%低下し、2.85%となりました。

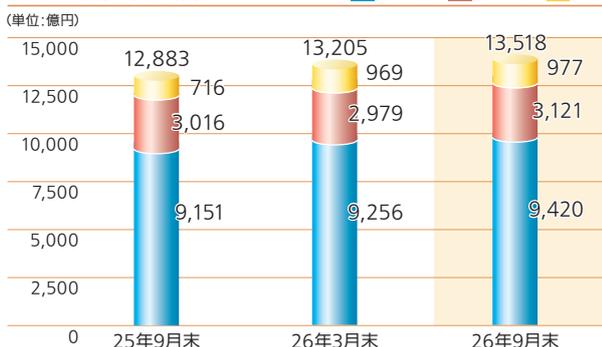
不良債権残高・比率



総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比634億円増加し、1兆3,518億円となりました。

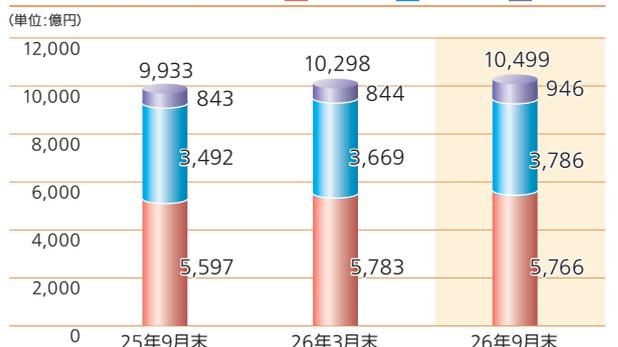
総資金残高(期末残高)



貸出金の状況

住宅ローンを中心とする個人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年同期末比566億円増加し、1兆499億円となりました。

貸出金残高(期末残高)



損益状況(単体ベース)

	平成25年度 中間期	平成26年度 中間期	(単位:億円) 前年比
業務粗利益	156	147	▲9
資金利益	132	124	▲8
国内部門	132	124	▲8
国際部門	0	0	0
役務取引等利益	19	20	1
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	4	2	▲2
経費(除く臨時処理分)▲	107	109	2
業務純益	26	38	12
コア業務純益	48	37	▲10
経常利益	22	45	23
中間純利益	19	31	12
信用コスト▲	29	▲11	▲40

「コア業務純益」は、貸出金利回り低下による資金利益の減少を主因に、前中間期比▲10億円減少し、37億円となりました。

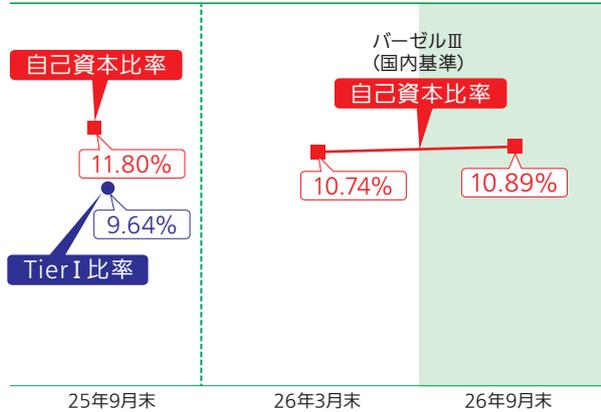
「経常利益」は、コア業務純益(前中間期比▲10)が減少したものの、信用コストが▲11億円の戻り益(前中間期比+40)となったことから、前中間期比+23億円増加し、45億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比+12億円増加し、31億円となりました。

自己資本比率の状況(単体ベース)

自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、26年3月末比0.15%上昇し、10.89%となりました。

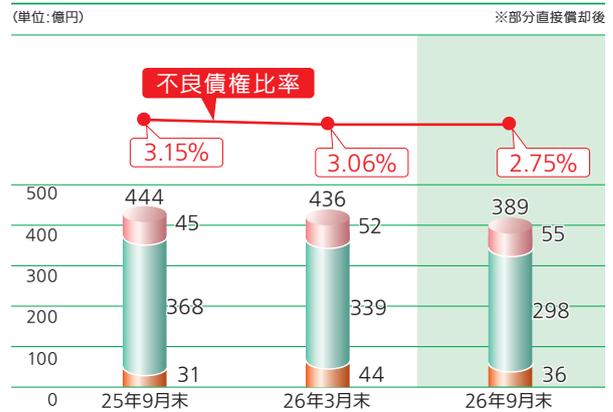
自己資本比率・Tier I比率



不良債権の状況(部分直接償却後)

不良債権残高は、26年3月末比47億円減少し、389億円となりました。不良債権比率は同0.31%低下し、2.75%となりました。

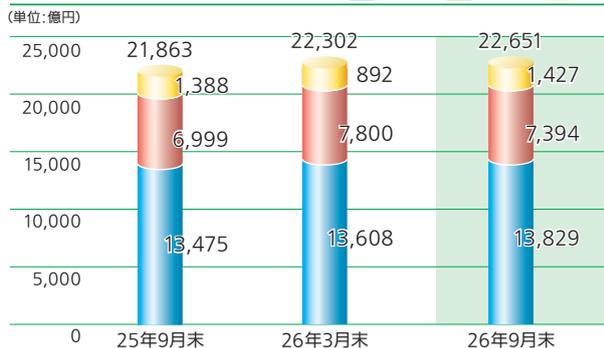
不良債権残高・比率



総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比787億円増加し、2兆2,651億円となりました。

総資金残高(期末残高)



貸出金の状況

法人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年同期末比47億円増加し、1兆4,001億円となりました。

貸出金残高(期末残高)

